

エリア別構想	8	東京・有楽町エリア	構	想
--------	---	-----------	---	---

## 1. エリアの概要

### (1) 区域

東京・有楽町エリアはJR東京駅、JR有楽町駅の2駅の徒歩圏を中心とした面積約146.3haのエリアです。北側エリア界はJR神田駅とほぼ中間にある日本橋川、東側は中央区境である外堀通り、南側は地下鉄日比谷駅のある晴海通り、西側は内堀通りです。

### (2) エリアの特色

東京・有楽町エリアは、日本の首都、都心の商業・業務地区となっており、高度な都市機能が集積しています。中心となるJR東京駅、JR有楽町駅は、区内の駅の中で1日当たりの平均乗車人員数が1番目と2番目に多い駅となっており、昼間人口も9エリアの中で一番多くなっています。その一方で、夜間人口はほとんどありません。主な公共・公益施設として東京国際フォーラムがあります。また、JR有楽町駅周辺は特に各種劇場や総合百貨店などが多く立地しています。

表 東京・有楽町エリアの特色

人口	昼間人口	夜間人口(区人口比)	内高齢者人口
	約221,600人	約100人(約0.3%)	約2人
公共施設等の状況	社会福祉施設		
	保健医療施設		
	行政サービス施設	東京中央郵便局、大手町合同庁舎、丸の内警察署	
	教育施設		
	その他公益施設	逓信総合博物館、東京国際フォーラム、帝国劇場	
	公園・緑地	常盤橋公園、皇居外苑、皇居東御苑	
鉄道の状況	鉄道路線	駅名	平均乗車人員
	JR東日本山手線他	東京駅	約382,000人
	JR東日本山手線他	有楽町駅	約162,000人
	JR東海東海道新幹線	東京駅	約100,000人
	営団丸ノ内線	東京駅	約72,000人
	営団有楽町線	有楽町駅	約69,300人
	営団丸ノ内線	大手町駅	約28,200人
	営団東西線	大手町駅	約73,700人
	営団千代田線	大手町駅	約38,600人
	営団半蔵門線	大手町駅	約12,600人
	都営三田線	大手町駅	約34,500人
	営団千代田線	二重橋前駅	約14,400人
	営団日比谷線	日比谷駅	約26,800人
	営団千代田線	日比谷駅	約21,800人
都営三田線	日比谷駅	約34,800人	
バス路線の状況	都営バス	東43系統(東京駅 - 大手町駅) 東98系統(東京駅 - 内幸町駅)など多数	

## 2. アクションプログラム

### (1) 鉄道事業

東京・有楽町エリアでは、以下の鉄道駅について特定旅客施設等として指定します。各鉄道事業者は、バリアフリールート確保の方針に従い、目標レベルの達成に向けた事業計画を作成し、事業の推進に努めます。

表 東京・有楽町エリアの鉄道駅とバリアフリールート確保の方針

駅名	事業者 路線名	分類	目標 レベル	バリアフリールート確保の方針
東京駅	J R東日本 山手線 総武本線 京浜東北線 東海道本線 京葉線 横須賀線 他 各新幹線	特定	A	専用通路から各ホームへのエレベーターを整備済みである。 新幹線・京葉線への乗換えも含め、専用通路によらないバリアフリールートを確保するための工事中。
	J R東海 東海道新幹線	特定	A	専用通路から各ホームへのエレベーターを整備済みである。専用通路によらないバリアフリーを進める。
	営団 丸ノ内線	特定	A	J R丸の内北口付近のエレベーターを使用しなくても地上に出られるような経路の確保を検討するとともに、トイレ等の施設・設備のバリアフリー化を進める。
有楽町駅	J R東日本 山手線 京浜東北線	特定	A	中央口から各ホームへ至るエレベーター・上下方向のエスカレーターを整備した。多機能トイレも設置した。
	営団 有楽町線	特定	B	バリアフリー化とソフト面での対応を充実し、利便性を高めるとともに、改札から地上までエレベーターを整備する方法について検討を進める。
大手町駅	営団 丸ノ内線 東西線 半蔵門線 千代田線	特定	B	ホームから改札口まで、ホーム間連絡通路のバリアフリー化整備及び、一体となって利用されるトイレ等設備のバリアフリー化を進める。
	都営 三田線	準特定	A	施設・設備のバリアフリー化を図るとともに、エレベーターの地上出入口設置用地の確保を図り、確保された時点でエレベーターを設置する。
二重橋前駅	営団 千代田線	準特定	A	エレベーターの地上出入口設置用地の確保に努めるとともに、サイン等設備のバリアフリー化を進める。 地上エレベーター用地が確保された時点で、エレベーターを設置する。
日比谷駅	営団 日比谷線 千代田線	準特定	A	エレベーターの地上出入口設置用地の確保に努めるとともに、トイレ等の施設・設備のバリアフリー化を進める。 地上エレベーター用地が確保された時点で、エレベーターを設置する。
	都営 三田線	特定	A	ビル所有者に既設エレベーターの移動円滑化基準への適合化整備を依頼するとともに、バリアフリールートと一体的に利用される施設・設備のバリアフリー化を進める。

## (2) 道路事業

東京・有楽町エリアでは、以下の道路について特定経路等として指定します。各道路管理者は、路線毎の整備方針に従い、目標レベルの達成に向けた事業計画を作成し、事業の推進に努めます。路線毎の具体的な整備内容については、ワークショップ等により、区民や中心となる旅客施設等を利用する当事者等からの意見を反映して実施します。

表 東京・有楽町エリアの特定経路等と整備レベル

名称	管理者	レベル	区間	延長
日比谷通り(国1)	国	B	晴海通り - 永代通り	約 1.18 km
永代通り(国1)	国	B	日比谷通り - JR呉服橋ガード	約 0.44 km
日比谷通り(都403)	都	B	永代通り - 神田橋	約 0.54 km
晴海通り(都304)	都	B	日比谷通り - 外堀通り	約 0.31 km
国際フォーラム前(都402)	都	B	晴海通り - 鍛冶橋通り	約 0.48 km
行幸通り	都	A	東京駅中央口 - 内堀通り	約 0.43 km
東京駅前	都	B	永代通り - 鍛冶橋通り	約 0.99 km
丸の内仲通り	区	B	鍛冶橋通り - 行幸通り	約 0.36 km

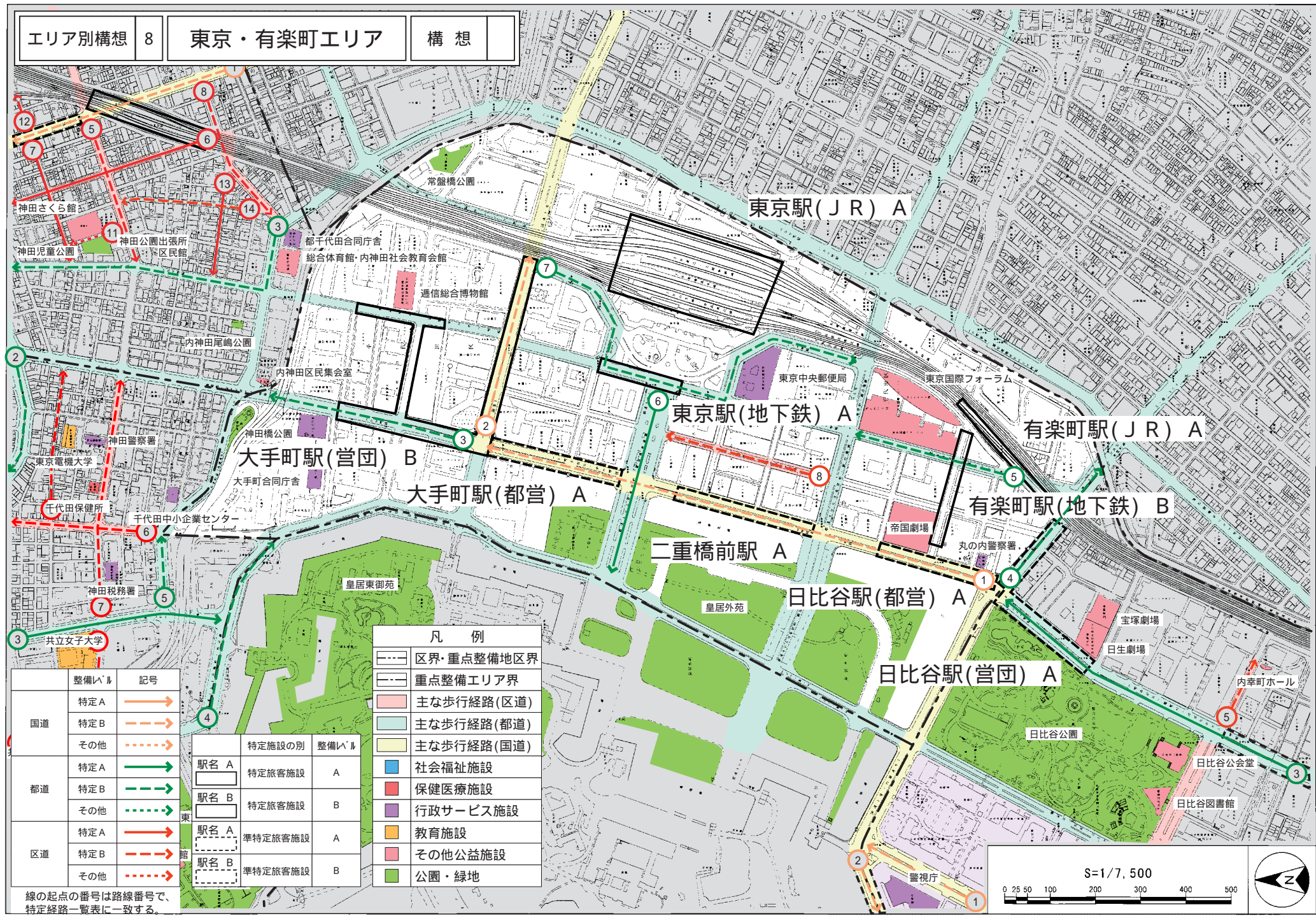
## (3) 交通安全事業

東京・有楽町エリアでは、特定経路に指定された道路について、ワークショップ等を行い、その検証結果に基づいて交通安全事業を重点的に実施します。

## (4) その他の事業

東京・有楽町エリアでは、以下に示すようなバリアフリー化に係わる事業を実施します。

- JR有楽町駅前広場の整備は、移動円滑化基準に基づく整備を行い、周辺の特定経路とのバリアフリー化された歩行空間のネットワーク形成に努めます。
- JR東京駅前広場整備においては、特定経路と連続性が高まるようなバリアフリー化事業を行います。



凡例

	区界・重点整備地区界
	重点整備エリア界
	主な歩行経路(区道)
	主な歩行経路(都道)
	主な歩行経路(国道)
	社会福祉施設
	保健医療施設
	行政サービス施設
	教育施設
	その他公益施設
	公園・緑地

	整備バⅡ	記号
国道	特定A	
	特定B	
	その他	
都道	特定A	
	特定B	
	その他	
区道	特定A	
	特定B	
	その他	

駅名	特定施設の別	整備バⅡ
駅名 A	特定旅客施設	A
駅名 B	特定旅客施設	B
駅名 A	準特定旅客施設	A
駅名 B	準特定旅客施設	B

線の起点の番号は路線番号で、特定経路一覧表に一致する。

